



発行所 千107-0052 東京都港区赤坂7丁目5番38号 公益社団法人 日本PTA全国協議会 発行人 東川勝哉 電話 03(5545)7151 FAX 03(5545)7152 ホームページアドレス http://www.nippon-pta.or.jp/

綱領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通過して我が国における社会教育及び家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

主な内容

- 1・2・3面 ○日本PTA創立70周年記念式典
4・5面 ○日本PTAブロック研究大会
6面 ○調査研究 子どもとメディアに関する意識調査 教育に関する保護者の意識調査
7面 ○「楽しい子育て三行詩」表彰式 ○国内研修事業開催日程等
8面 ○2019年度初等中学教育予算説明について ○新刊書籍紹介

日本PTA創立70周年記念式典

団体、個人に文科大臣表彰など

平成30年11月21日、日本PTA創立70周年記念式典が、東京都千代田区のホテルニューオータニにおいて、皇太子同妃両殿下をお迎えして開催された。席上、PTAの振興・発展に寄与した団体と個人に対し文科科学大臣表彰・日本PTA会長表彰が贈られた。皇太子殿下は、受賞者の労をねぎらうとともに、「皆さんが手を携えて、次代を担う児童・生徒たちの健全な育成のため、今後も家庭・学校・地域の懸け橋となり、一層力を尽くしていけることを期待しています。」とお言葉を述べられた。



皇太子殿下お言葉

本日、日本PTA創立70周年記念式典が開催され、全国から参加された皆さんと共に祝いできることをうれしく思います。 PTAは、終戦から間もない昭和23年、全国各地の小学校・中学校において、児童・生徒たちの健やかな成長を願って、保護者と教員が協力する組織として誕生しました。それ以来、PTAが教育の発展に果たした役割は大きく、70年間に

わたって、子供たちの力を伸ばすため、たゆみない努力を続けてこられました。 また、日本PTA全国協議会では、日頃より親子で話し合う大切さを社会全体に呼び掛ける三行詩コンクールや、子供を取り巻く社会環境などに関する意識調査を始めとする様々な取組をしてこられました。東日本大震災や平成28年熊本地震に際しては、被災した学校の教育活動や子供たちの心のケアのため、募金を行って支援をされたと同様です。

今日、インターネットの普及など、青少年を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。このような中、皆さんが手を携えて、次代を担う児童・生徒たちの健全な育成のため、

日本PTA創立70周年記念式典は、ホテルニューオータニの間、大島理森衆議院議長、伊達忠一参議院議長など多くのご来賓のご臨席のもと、受賞者、各地方協議会関係者などPTA関係者約1600名が出席、挙行了。 式典では国歌・PTAのうた斉唱ののち、東川勝哉会長が多数の御来賓のご臨席に感謝のお礼と、受賞者の皆さんの功績を称え「日本PTAは創立70周年を迎えた本年を機に、今一度、原点に立ち返り、子どもたちの健全育成に努め、社会教育の振興と家庭教育の質の向上を目指し、今後も真摯に活動していく」と式辞を述べた。

引き続き表彰に入り、文科科学大臣表彰の柳井市立柳井南中学校PTAなど優良PTA123団体、名古屋市・寺本充氏などPTA振興功労者144名に柴山文科科学大臣より表彰状が贈られた。 次に日本PTA会長表彰の長崎県立芦辺中学校PTAなど124団体、鳥取県・大呂延幸氏など245名、また長年PTA活動に尽力された614名へ表彰状が東川会長より贈られた。また、福井県福井市円山小学校PTAなど、第40回全国小・中学校PTA広報紙コンクールに入賞した44校も表彰された。

その後、皇太子殿下より「インターネットの普及など、青少年を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。このような中、皆さんが手を携えて、次代を担う児童・生徒たちの健全な育成のため、今後家庭・学校・地域の懸け橋となることを期待しています。」とお言葉を述べられた。(皇太子殿下のお言葉全文別掲) また、ご来賓として出席の安倍内閣総理大臣(公務)欠席のため、五十嵐副会長が代読)、大島衆議院議長、伊達参議院議長、柴山文科科学大臣(文部科学副大臣永岡桂子氏が代読)からそれぞれ祝辞を頂いた。(祝辞別掲) そして兵庫県・尾上浩一氏が受賞者を代表して「学校を取り巻く環境が日々変化し、あらゆる事案が複雑化・多様化する中、PTAの存在意義と果たすべき責任と役割は、必要不可欠なものであります。私たちが大人が社会教育、特に成人教育に真摯に取り組み、地域に限らず企業をも巻き込んだ形は、国が目指す新学習指導要領の内容ともリンクし、子どもたちの学びを支える未来への懸け橋となるものと確信しております。」と謝辞を述べ、記念式典は盛會裡に終了した。



式典終了後、国立大学法人豊橋技術科学大学学長・大西隆氏による講演「科学技術―夢の実現と担い手の育成―」が行われた。また、講演会終了後、会場を同ホテル・芙蓉の間へ移し、祝賀会が催された。

あいさつ

公益社団法人 日本PTA全国協議会 東川 勝哉 会長

原点に立ち返り 健全育成に尽力



日本PTA創立70周年記念式典に際し、主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。 本日ここに、皇太子同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、このように盛大に式典を開催できまことに謹んで御礼を申し上げます。 また、衆議院議長大島理森様、参議院議長伊達忠一様、文部科学大臣柴山昌彦様をはじめとする大変多くの御来賓の皆様にご臨席たまわりましたことに、衷心より御礼を申し上げます。 本記念式典では、これまでの70年の歩みを振り返りますとともに、社会教育の発展に貢献された多くの皆様への感謝を深め、これを表彰し、関係者一同で喜びを分かち合い、

今後の一層の発展を期すものとして挙行するに至りました。さて、日本PTAの綱領は次のように記されています。「本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通過して、わが国における社会教育及び家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。」としています。 日本PTAの創立は昭和23年であり、前年の昭和22年、文部省(当時)は「父母と教師の会―教育民主化のために」と題する手引書を作成し、全国の都道府県知事へ送付しています。その中で、PTAの趣旨を「子どもたちが健やかに正しく育っていくには、家庭と学校と社会とが、その教育の責任を分け合い、力を合わせて子どもたちの幸福のために努力していくことが大切である」としています。 日本PTAはその意義を違えることなく実践に移し、我が国の教育に大きく貢献し、また社会教育関係団体として様々な教育施策に良識的に影響を及ぼす組織・団体として活動してまいりました。各時代における子どもたちを取り巻く環境は実に多様でありましたが、今後も、日本PTAは要望・要請活動に留まらず、「大人の学び」として「社会教育」の振興を図り、多くの皆様がその本質や有用性を学べる機会を積極的に創出していかねばなりません。 教育基本法の第一条「教育の目的」に、教育とは、「人

格形成」と「平和的な国家・社会の形成者として心身ともに国民の育成に期すること」としています。家庭・学校・そして地域での学びを通じて複合的な学びが人格形成につながる」と言え、特に「家庭教育」はすべての教育の出発点であり、PTAの存在は我が国の教育に欠かすことができないものであるといえます。

結びに、日本PTAは創立70周年を迎えた本年を機に、今一度、原点に立ち返り、子どもたちの健全育成に努め、社会教育の振興と家庭教育の質の向上を目指し、今後も真摯に活動して参ることをお誓い申し上げますとともに、本日ご臨席のすべての皆様のご健康ご多幸を心より祈念申し上げます、主催者代表のご挨拶といたします。

祝辞

内閣総理大臣

安倍 晋三氏

本日ここに、皇太子同妃両殿下の御臨席を賜り、日本PTA創立70周年記念式典が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。日本PTA全国協議会には、長年にわたり我が国の教育の発展に多大な貢献をしてこられたことに感謝申し上げますとともに、本日表彰を受けられました方々が、平素より各地において活発に活動を展開してこられましたことに深く敬意を表します。

現在、日本は急速な少子高齢化という困難に直面しています。未来を担う子供たち、子育て世代に大胆に投資していくことで、この困難をチャンスに変えていく決意であります。全ての子供たちが、未来に希望を持ち、それぞれの夢に向かって頑張ることが出来る。そうした社会を創り上げていくことが、教育の役割であると考えます。

学校、家庭、地域が連携・協働し、社会全体で子供を

育むことが求められる中、その架け橋となるPTA活動の役割はますます大きくなっていきます。皆様方の日頃の御尽力に、改めて感謝申し上げますとともに、今後とも、PTA活動のリーダーとして、引き続きお力添えいただきますよう、お願いいたします。

結びに、日本PTA全国協議会及び全国のPTA活動のますますの御発展と、本日お集まりの皆様方の一層のご健勝を祈念し、私のお祝いの言葉といたします。



祝辞

衆議院議長

大島 理森氏



本日ここに、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、日本PTA創立70周年記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

戦後、当時の文部省によるPTA設立の勸奨活動等により、戦前から運営されてきた親の会を母体としながら、全国の学校にPTAがあまねく組織されるようになると、地域ごとの連合

組織はもとより、全国組織の結成が意識されるようになり、昭和23年に日本PTA全国協議会が創立されました。

以来、PTAは、子どもたちの健全な育成と福祉の増進のため、家庭・学校・地域社会の連携の要として、我が国における家庭教育、学校教育、社会教育の充実に大きな役割を担ってこられました。

ここに、PTA活動に主体的に取り組む、それぞれの時代・地域の要請に誠実に応えてこられた皆様に対して、心から敬意を表します。

今日、核家族化や少子化

祝辞

参議員議長

伊達 忠一氏



本日ここに、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、日本PTA全国協議会創立70周年記念式典が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

戦後、新学制の発足とともに各地で活動を開始したPTAは、以後70年制度を支える大きな柱との進行、ライフスタイルの変化等により、全ての教育の出発点である家庭教育が困難になってきているとの指摘がありますが、社会全体で家庭教育を応援し、支え合っていくことが必要であります。また、いじめや虐待の防止に努めることも、子どもの貧困対策を推進し、いのちや人権の大切さを啓発していかなければなりません。

さらに、子どもたちの安心・安全を守るため、防犯意識の高揚を図るとともに、災害に対する備えや、被害を受けた子どもたちの心身のケアを行うことも重要です。グローバル化著しい昨今においては、国際交流・研修を通じて、国際社会で活躍できる人材を育成していくことも求められております。

大きな社会問題となっており、このような時代であればこそ、子どもたちが安心して健やかに成長できる教育環境を整備していくことが何よりも大切であり、地域における社会教育というPTAの活動がこれまで以上に重要になってくると思われま

す。

結びに、本日栄えある表彰を受けられた方々に心よりお祝いを申し上げますとともに、貴協議会



祝辞

文部科学大臣 柴山 昌彦氏  
永岡桂子・文部科学副大臣(代読)



本日、日本PTA創立70周年記念式典が、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、このように盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

結びに、本日栄えある表彰を受けられた受賞者の皆様に対し、心からお慶びを申し上げますとともに、全国のPTA活動の益々の御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

特に、本日栄えある賞を受賞された皆様におかれては、永年にわたり、他の模範となる活動に努められ、PTA活動の振興に多大な貢献をされました。これまでの御功績に対し、深く敬意を表します。

文部科学省が担う教育再生、科学技術イノベーション、スポーツ、文化の振興は、「人づくり革命」や「生産性革命」において中核を担うものです。

教育再生に向けた取組を着実に実現するため、今後五年間を計画期間とする第三期教育振興基本計画に基づく施策を実行することも、必要な財源を確保しつつ、教育投資の充実に努めてまいります。

我が国が持続的に成長・発展するには、一人一人の能力や可能性を最大限引き出し、多様な個性を伸ばす教育が不可欠です。これを実現すべく、新学習指導要領の円滑な実施と、東川会長にも委員として参画していただいている中央教育審議会での議論を踏まえた学校における働き方改革に向け、業務の役割分担・適正化を進めてまいります。

さらに、子供たちの安全の確保も重要な課題です。本年五月新潟市で痛ましい事件が発生しました。この事件を受けて、関係関係会議で「登下校防犯プラン」を取りまとめ、関係省庁が連携して登下校時の防犯対策に取り組みしております。児童生徒等の登下校時の安全を確保するためには、地域全体で見守る体制の整備が非常に重要です。

こうした様々な課題があるなか、これらの取組の実効性を高めるためには、PTA・保護者の皆様のご協力が必要不可欠です。

皆様の熱意や日頃の御尽力に感謝申し上げますとともに、文部科学省としても皆様と手を携え、我が国の教育の一層の充実に努めてまいります。

結びに、本式典の開催に御尽力されました関係各位に深く敬意を表しますとともに、日本PTA全国協議会並びに本日お集まりの皆様方の一層の御発展を祈念して、私のお祝いの言葉といたします。

結びに、本式典の開催に御尽力されました関係各位に深く敬意を表しますとともに、日本PTA全国協議会並びに本日お集まりの皆様方の一層の御発展を祈念して、私のお祝いの言葉といたします。

謝辞

兵庫県 尾上 浩一氏



日本PTA創立70周年記念式典において、このような名譽ある表彰を受けることに心より感謝を申し上げますと、被表彰者を代表して一言、お礼を述べさせていただきます。

私たちは、全国各地の学校というコミュニティでのPTA活動を通じ、また、社会の中心を担う責任世代である保護者として真剣に日本・地域の未来と教育について考え、議論し、積極的な取り組みや能動的に行動してきたことが栄えある表彰となり、ともにその活動に関わらせていただいた仲間としても、誠に慶賀の至りでありたい。



また、関係各位におかれましては、PTAのより一層の充実のために、さらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。また、関係各位におかれましては、PTAのより一層の充実のために、さらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

記念講演

「科学技術—夢の実現と担い手の育成」

国立大学法人豊橋技術科学大学学長・工学博士



大西 隆 先生

大西隆先生は工学博士で日本学術会議会長、東日本大震災復興構想会議委員を務められ、2014年4月からは国立大学法人豊橋技術科学大学学長に就任されており、今回は先生のこれまでの研究テーマとして生きてきた時代と比べ

マである、人口減少時代の都市計画、持続可能な地域と広域計画、低炭素まちづくり、復興街づくり等の観点から貴重な講演をいただいた。講演では先生が現在学長を務める豊橋技術科学大学で行っている実践的、創造的かつ指導的技術者・研究者の育成や地域社会との連携といった内容についてもお話がありました。特にこれからの社会を担う子どもたちが生きていく今の時代が、保護者が子どもとして生きてきた時代と比べ

大きく変化しており、これらの時代を生き抜く子どもたちがこのような社会環境の中で今後どうあるべきか、そして、保護者は子どもたちをどう育んでいくかという先生のお言葉は私たち保護者に大きく響くものとなった。

「子どもたちの未来へ！」全国シンポジウム開催

平成31年1月27日(日)東京よみうりホールにて、日本の未来を切り拓く子どもたちのよりよい育成環境を目指し、全国規模の教育関係団体等が一堂に会し学び合い繋がり合う「子どもたちの未来へ！」全国シンポジウムを開催しました。今回の試みとなるこのシンポジウムは、全国規模の教育関係団体等が一堂に会し、子どもたちを取り巻く環境と目指す未来の目標について視点を共有することを目的に開催されました。

【シンポジウム】

応援メッセージ

◇元プロボクサー 内山高志氏



鳥塚亮氏 (実業家 いすみ鉄道前社長) 青野慶久氏 (株式会社サイボウズ社長) 生重幸恵氏 (NPO法人スクール・アドバンス ネットワーク理事長 中央教育審議会6期委員) コーディネーター



基調講演 筑波大学教授(人間系教育学域) 浜田博文氏

【パネルディスカッション】 テーマ 「育てる 育む 大人をつなぐ」 《パネリスト》 中澤日菜子氏 (カドカワ書店発行「PTA グランパ！」著者)



東川勝哉(公益社団法人日本PTA全国協議会 会長) 後援団体・文部科学省、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校校長協会、公益社団法人日本教育会、独立行政法人国立青少年教育振興機構、全国国立幼稚園・こども園PTA連絡協議会、全国国立大学附属学校PTA連合会、一般社団法人全国高等学校PTA連合会、一般社団法人全国図書教材協議会、株式会社日本教育新聞社、一般社団法人子どもの未来応援団、株式会社読売新聞社

【基調講演】 筑波大教授の浜田博文先生による基調講演のテーマは「家庭・学校・地域のつながりで築く子ども達の未来」ということで、子ども達の今についての説明があり、今後私たちがどういった形で子ども達のために貢献できるか多様な資料によりわかりやすく説明していただきました。特に、人口動向や進学率、問題となつている若い世代の自殺等についての資料については考えさせられるものがありました。 また、よく言われている学級崩壊については、地域に学校に協力的な住民が多いほど数値が低いということ、今回のシンポジウムの大きなテーマである大人と大人が繋がること、まだまだ私たちに色んなことができるのではないかと考えさせられました。最後に先生からあった言葉に「子どもを育てることは「私事」ではなく、公共の営みである」とありました。これまで「家庭・学校・地域で一緒に」と言ってもなんとなくどうやれば上手くいくのだろうかと思うところがありました。先生のお言葉でどこかスッキリしたような気がしました。自分もこれから地域に帰り、今まで以上に子ども達や学校、地域に関わっていきたくと思いました。(レポート・愛媛県 村上二郎)



# 日本PTAブロック研究大会

12校のから中学生参加し討論会も

## 第65回日本PTA北海道ブロック研究大会

旭川大会

○期日 10月6日・7日  
○場所 旭川市 旭川市民文化会館他

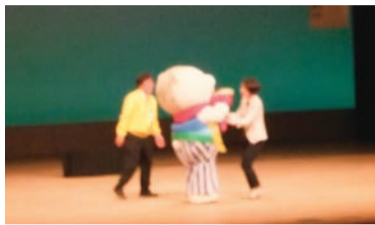


木村泰子氏

北海道ブロック研究大会旭川大会が、約1600名の会員を迎え、167の橋が架かり、そこに767の橋が架かり、今回の大会で全道を結ぶ「架橋」としてのまち旭川の地で開催されました。

一日目は旭川市民文化会館など3会場で5つの分科会と2つの特別分科会が開催され、二日目は旭川市民文化会館大ホールで、全体会、記念講演、閉会行事等が行われました。一日目の各分科会では、それぞれのテーマに基づき、各単位PTAや各地区の特色あるPTA活動の取組の発表があり、多様な会員との多様なPTA活動、子どもの豊かな心を育む体験活動、地域と共に取り組むPTA活動、地域と繋がる特色あるPTA活動、ネット社会を生き抜くための親子の学びなど、様々な視点から熱心な研究協議が行われました。

また、特別第1分科会「中学生討論会」では、「子の思い・親の思い」未来への架橋」をテーマに12校14名の中学生による討論が行われ、特別第2分科会では「多様な個性を持つ子どもたちの支援」をテーマに、発達障がいについての基調講演、インクルーシブ教育の基礎知識についての講話、パネリストによる意見交換等が行われました。二日目の全体会の講演では、大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子氏から「みんながつくる みんなの学校」地域の学校にすべての子どもが安心して学び合える居場所を」と題し、「すべての子どもを多方面から見つめ、全教職員のチームの力ですべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」ということについてお話ししました。最後に、来年度の札幌大会での再会を願いながら大会を終了しました。



つながりを絆に 美の国秋田で

## 第50回日本PTA東北ブロック研究大会

秋田大会

○期日 9月15日・16日  
○場所 秋田市文化会館他5会場

第50回日本PTA東北ブロック研究大会秋田大会が、スタッフを合わせ2025名のPTA会員の参加のもと、「つながる東北 深めよう絆 美の国秋田で学びあおう」未来を拓く子どもたちのために「を大会スローガンに掲げ開催されました。ご感謝を申し上げます。

7年前の東日本大震災から東北ブロックの研究大会も一回りし、50回という節目の大会でもありました。

今大会では、第一分科会から特別分科会まで6つの分科会に分かれ、現在の子どもたちを取り巻く問題について語り合いました。中には



自らの人生を切り拓くことができる大人に

## 第74回日本PTA東海北陸ブロック研究大会

愛知大会

○期日 10月19日・20日  
○場所 分科会 愛知県刈谷市他三河地区6会場  
全体会 愛知県刈谷市総合文化センター



岩崎由純氏

東海北陸ブロック6県1市から2600人を超える参加者を迎え、愛知県刈谷市など、県内6か所を会場に、第74回日本PTA東海北陸ブロック研究大会愛知大会が開催され

PTAの五つの「わ」我・話・輪・環・和歌山

## 第44回日本PTA近畿ブロック研究大会

和歌山大会

○期日 11月3日  
○場所 和歌山県民文化会館、アバローム紀の国

第44回日本PTA近畿ブロック研究大会和歌山大会が去る11月3日に和歌山県民文化会館を中心に開催されました。

当日、近畿各地よりご参加頂きました2200名を超えるPTA関係の皆様や大会に花を添えて頂きましたご来賓の皆様へ深く感謝申し上げます。午前中の第1から第5までの分科会では、組織・運営《環》、生涯学習《我》、人権学習《和》、青少年健全育成《輪》、広報活動《話》の5

ての成果をあげることができました。

全体会では、日本ペップトーカー普及協会代表理事の岩崎由純氏による「子どもの夢を支える『魔法の言葉』」と題して記念講演が開催されました。ペップトーカーのペップとは、元気、活気、活力といった意味の英単語です。そこにトークが付いて、激励演説、応援演説という意味になります。スポーツ界では試合直前の選手、家庭や学校では子どもたちへの励ましという言葉のことです。

岩崎氏による巧みな話の展開や興味を引く映像や動画、アメリカや日本での確かで豊かな経験に裏打ちされたお話しに聴衆は魅了され、時間の経過を忘れられました。「我が子のことを一番よく



小西博之氏

幕を開け、開会式・表彰式・大会宣言採択と進み、記念講演は、田辺市出身の小西博之氏にご講演いただきました。「いのちの大切さ」大人がもっと夢を語ろう」と題した講演では、ご自身の闘病の話、欽ちゃんとの出会いの話、先生を目指していた話などを交え、今の家庭教育や学校教育で忘れられていることを、ユーモアを交えながら熱く語ってくれました。中でも「生きていくだけで150点」と言う言葉に胸を打たれた参加者

も多かったのではないのでしょうか。最後にこの大会の運営を通じて、かけがえのないPTAの仲間と出会い、共に同じ時間を過ごせたことに心から感謝致します。



ブロック研究大会 (一覧)

第65回日本PTA北海道ブロック研究大会 旭川大会	開催日時 10月6・7日	記念講演 木村 泰子
スローガン 「架橋架けよう 未来へ 希望の橋を つなごう ころを 子どもたちのために」		
第50回日本PTA東北ブロック研究大会 秋田大会	開催日時 9月15日・16日	記念講演 橋本五郎・菊池桃子
スローガン 「つなごろう東北 深めよう絆 美の国秋田で学びあおう」 ～未来を拓く子どもたちのために～		
第74回日本PTA東海北陸ブロック研究大会 愛知大会	開催日時 10月19日・20日	記念講演 岩崎 由純
スローガン 愛と知で子どもたちの未来に夢と希望を - 共に学び 共に育ち 共に考動するPTA-		
第44回日本PTA近畿ブロック研究大会 和歌山大会	開催日時 11月3日	記念講演 小西 博之
スローガン PTAの五つの「わ」 ～我・話・輪・環・和歌山～		
第48回日本PTA中国ブロック研究大会 山口県岩国大会	開催日時 11月10日	記念講演 坪田 信貴
スローガン 抱きしめよう！次代を生きる地域の宝 ～未来へつなく 希望の架け橋～		
第47回日本PTA四国ブロック研究大会 愛媛大会	開催日時 10月21日	記念講演 菊池 桃子
スローガン 愛の手で未来を築くPTA ～愛顔(えがお)あふれる子どもたちとともに～		
第63回日本PTA九州ブロック研究大会 鹿児島大会	開催日時 10月27日・28日	記念講演 大嶋 啓介
スローガン 明治維新150年 語いもんそ鹿児島(かごんま)で ～みんなで成長していくPTA活動～		

寸劇など交え実践発表を演出

第48回日本PTA中国ブロック研究大会  
山口県岩国大会

○期日 11月10日  
○場所 シンフォニア岩国

11月10日土曜日、日本三大奇橋のひとつ、世界遺産を目指す「錦帯橋」のある山口県岩国市において、中国5県と広島市の6団体から1600人の参加をいただき、第48回日本PTA中国ブロック研究大会山口県岩国大会を開催しました。

ウェルカムコンサートでは岩国市立麻里布中学校吹奏楽部が三年生最後の舞台として素晴らしい演奏を披露、感動の幕開けとなりました。

続く3校の実践発表では、それぞれの学校が寸劇を交え、それぞれの特徴を生かした演出により、笑いあり、学びありと会場の皆さんを飽きさせない演出に努めました。アトラクションの北中山こども神楽では、伝統芸能を引き継ぐ小さな子どもたちの登壇に会場からはあたたかい拍手と笑いがおきました。

大会の最後はビリギャルの



坪田信貴氏

講師で有名な坪田信貴さんが「子どもの底力を圧倒的に引き出す5つのポイント」を演題に、「子どもが興味のあるものと将来の目標をいかに結びつけることができるか」、「親が「それは無理」など夢に対してミスリードをしていないか」などのお話をユーモア交えながら講演され、1時間半の時間があっという間に過ぎました。

暖冬により、紅葉で皆さんをお迎えすることはできません



んでしたが、主管の岩国市PTA連合会の気持ちのこもったおもてなしにより、大会終了後、参加された皆さんからたくさんのお褒めの言葉をいただきました。

ありがとうございました。

防災・減災の研修の大切さ実感

第47回日本PTA四国ブロック研究大会  
愛媛大会

○期日 10月21日  
○場所 愛媛県武道館

10月21日(日)愛媛県武道館にて、四国4県より約1700名の会員が集い、第47回四国ブロックPTA研究大会愛媛大会が「俳句の街―松山」で開催されました。「愛の手で未来を築くPTA」愛顔(えがお)あふれる子どもたちとともに、2つの分科会、実践発表を含めた特別分科会、記念講演を実施いたしました。

また、「四国は一つ」を合言葉に四国4県の会長が力を合わせ、大会を成功へと導きました。



分科会は、提言発表、指導助言、パネルディスカッションと、これまで積み上げられたPTA活動の実践事例や家庭・学校・地域の連携・協働のあり方、時代の要請や青少年の問題行動に対する取組対応など、討議の柱とされていたポイント等に焦点を当てながら、会場からの意見や質問に応じたディスカッションが活発になされ、充実した大会となりました。

記念講演会では、「大人が変われば子どもが変わる。子どもが変われば未来が変わる。」と題したテーマのもと大嶋啓介氏の情熱を持って語られる言葉に、会場いっぱい参加者が引き込まれ、熱心にメモや、ワークショップ用紙に記入しながら、笑顔と、涙、まじりながら、感動の姿があった。



大嶋啓介氏

○期日 10月27日・28日  
○場所 鹿児島アリーナ 他8会場

第63回日本PTA九州ブロック研究大会  
鹿児島大会

大人が変わり子の未来確かなものに

九州各地から約7300名の参加を得て、8つの分科会・全体会での日程で大会を開催いたしました。

一年後にその目標が達成したことをイメージし、「やった」という大きな喜びを前もって喜び感得し合う体験活動を行うワークショップ的な内容で会場が大いに盛り上がった。

子どもの未来を確かなものにするためには、大人が変わると子どもが変わっていく。大人が輝くと子どもが輝いていく。家庭における保護者の姿には、明るく振る舞い接することが非常に大切であることも熱く語られた。

子どもの未来に希望や夢を持たせるために何が必要であるかを子どもにとつての母親像を話題にした事例をスクリーンで紹介されながら、テーマに迫る講演となった。講演終了後には、講師自ら参加者を見送られ、感動の姿があった。



第1分科会では、読書振興をテーマとした講演で、絵本の読み聞かせの教育的効果や読書教育における意義等を学びました。第2分科会では、家庭教育をテーマとした講演で、子どもへの話し掛け方や、自己肯定感等について学びました。特別分科会では、防災

子どもたちを取り巻く環境は日々変化し、私たち大人はどれから手をつければよいか分かりません。しかしながら、今大会で学んだ内容を、一つ一つ実践することで明日への光が見えて来ると信じています。

最後になりますが、この研究大会に関わってくださった全ての方に感謝いたします。そして、ともに愛顔(えがお)あふれる子どもたちのために頑張りました！

記念講演会では、「大人が変われば子どもが変わる。子どもが変われば未来が変わる。」と題したテーマのもと大嶋啓介氏の情熱を持って語られる言葉に、会場いっぱい参加者が引き込まれ、熱心にメモや、ワークショップ用紙に記入しながら、笑顔と、涙、まじりながら、感動の姿があった。



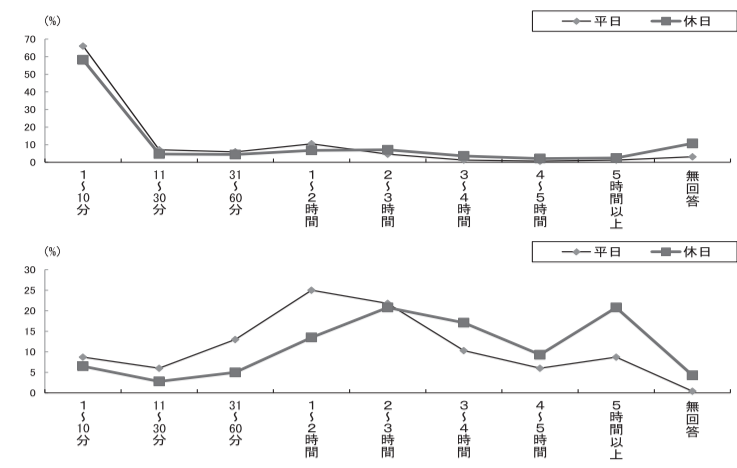
# 子どもとメディアに関する意識調査

日本PTA全国協議会は、公益目的事業のひとつとして、調査研究事業を行って、調査研究事業を行って、「子どもとメディア」に関する意識調査は「教育に関する保護者の意識調査」と並び本会が長きにわたり行っている調査です。

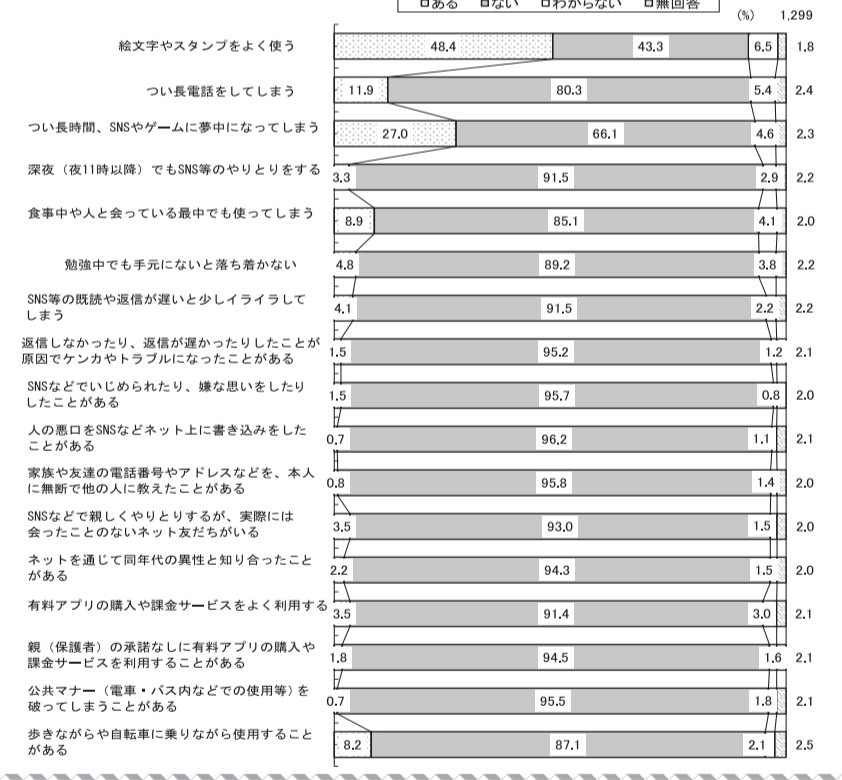
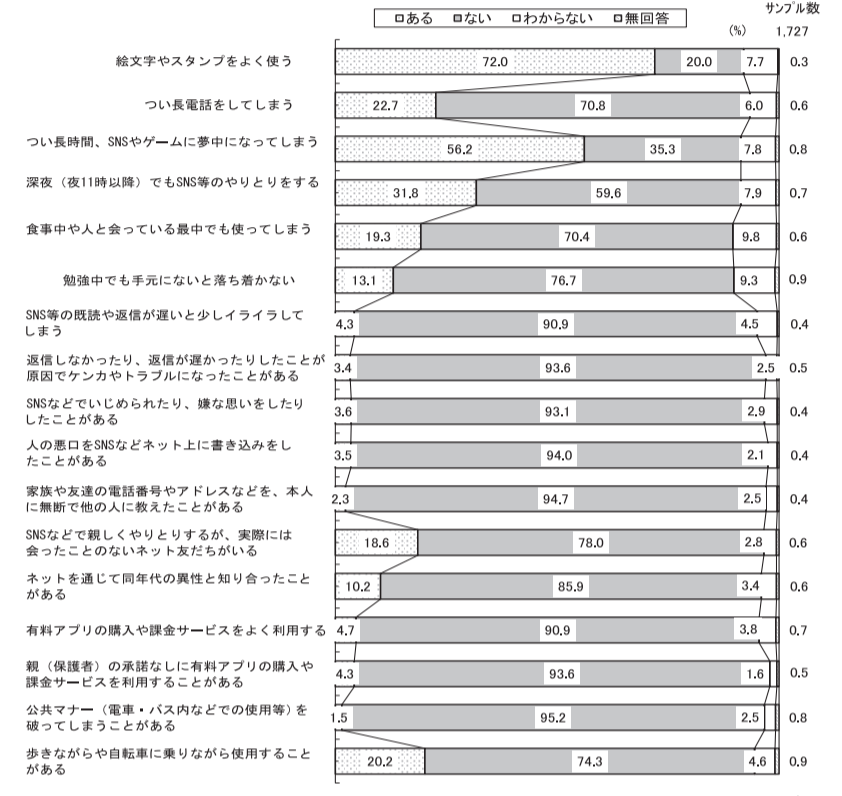
視座を変えながら設問を用意し、普遍的な設問と併せ、保護者の意識が如何に変容しているかを捉え、時代の要請にこたえるPTAの在り方や課題解決のため、家庭教育の実践のために有用な資料・情報となる報告書を作成しています。

平成14年から実施している本調査をひも解くと、経

問 あなたはスマートフォンや携帯電話を1日どれくらい使っていますか。平日、休日それぞれについて答えて下さい。(○はそれぞれ一つ)



問 あなたは、スマートフォンや携帯電話の使用について、次のようなことがありますか？(各項目○は一つ)



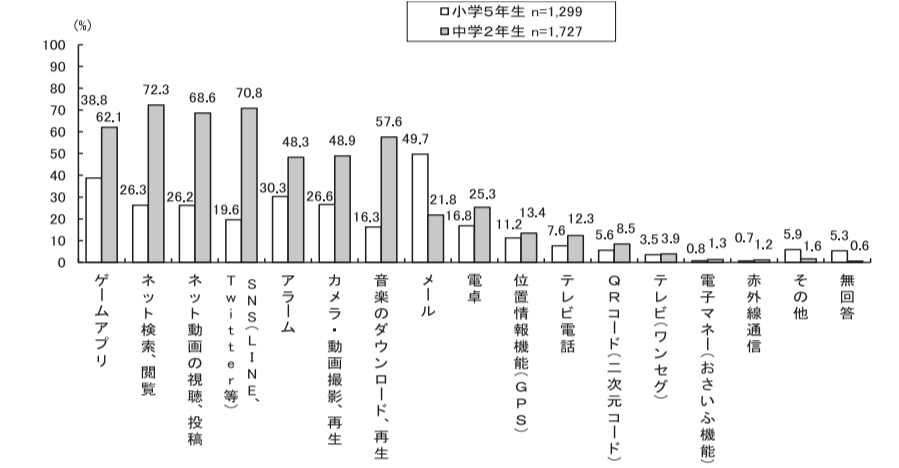
年変化からみられる保護者の意識や、今日的な課題にみられる意識の変化など、現代の子どもたちを取りまく問題や環境の変化などが如実に顕れています。

**調査対象者**  
小学5年ならびに中学2年保護者(全国64協議会より推薦された学校にて調査実施)

**調査期間**  
平成30年9月10日～9月21日

「平成30年度子どもとメディアに関する意識調査報告書」発行3月(予定)  
1296円+発送手数料

問 あなたがスマートフォンや携帯電話で通話以外によく使う機能はどれですか？(○はいくつでも)

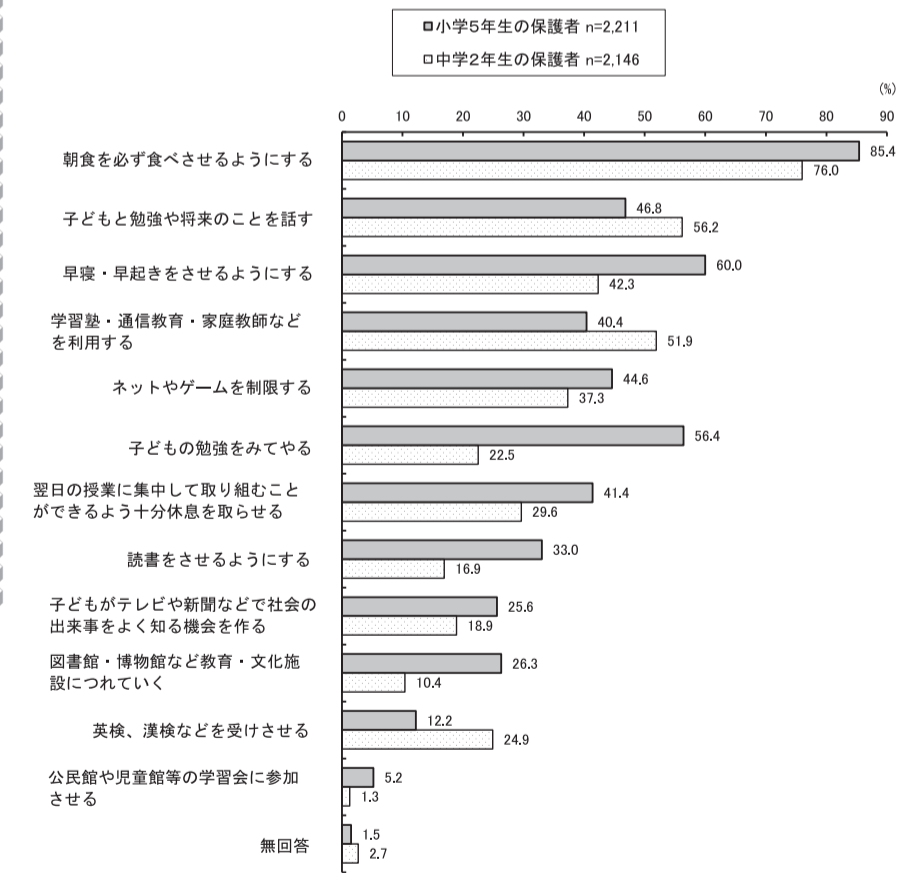


問 あなたの家庭では、スマートフォンや携帯電話の使用について何らかのルールがありますか？(○は一つ)

【家庭内でのルール】保護者から見た(%)

	小学5年生	小学5年生保護者	+	-	中学2年生	中学2年生保護者	+	-
ある	56.8	70.0	+	13.2	57.2	76.8	+	19.6
ない	40.6	27.7	-	12.9	41.1	22.3	-	18.8
無回答	2.6	2.3	-	0.3	1.7	0.9	-	0.8

問17 「家庭で子どもに十分「しつけ」をしない・できない保護者が増えている」という声を聞くことがありますか、あなたはどのように感じていますか？



問12 仮にいじめなどの問題が起きた場合、あなたの子どもが通う学校は、適切に対応してくれると思いますか？

	十分に対応してくれると思う	ある程度は対応してくれると思う	少しだけは対応してくれると思う	全く対応してくれないと思う	わからない	無回答
小学5年生の保護者	17.2	52.3	15.0	12.3	2.5	0.7
中学2年生の保護者	14.6	50.2	17.8	13.4	3.0	1.1

## 教育に関する保護者の意識調査

日本PTA全国協議会では、小学校及び中学校におけるPTA活動を通して、我が国における社会教育及び家庭教育の充実に努めることを大きな柱としており、その一環として「教育に関する保護者の意識調査」を平成14年度より行っています。

今回の調査内容は、保護者の意識の経年変化を推し量る項目を基本に、児童・生徒を取り巻く社会環境を踏まえた時事的性の高い項目とし、学校教育・家庭教育・家庭と学校のコミュニケーションの各分野において、保護者の方がどのように考え、どのようなことを期待し、どのようなことを行っているか等について把握するものとなっております。

**調査対象者**・小学5年ならびに中学2年保護者(全国64協議会より推薦された学校にて調査実施)

**調査期間**・平成30年9月10日～9月21日

「平成30年度教育に関する保護者の意識調査報告書」発行3月(予定) 1296円+発送手数料

# 楽しい子育て三行詩表彰式

平成30年12月23日、「楽しい子育て全国キャンペーン」三行詩の表彰式が国立オリピック記念青少年総合センターにて開催されました。全国から14万点近い力作が寄せられ、厳正なる審査の結果、33作品が受賞されました。表彰式は受賞者とそのご家族を招待して執り行われ、校長先生やお孫さんの晴れの姿を観たい祖父母の方などで、会場は熱気につつまれました。

開催にあたり、文部科学省・厚生労働省・早寝早起き朝ごはん全国協議会等、関係各位からご来賓に臨席頂き、厳粛な雰囲気の中、盛大に挙行されました。表彰ステージでひとりひとりに各賞状が手渡され、堂々と誇らしげな方や照れながらも嬉しそうなお孫さん、会場全体が微笑むことも温かい空気に包まれた表彰式となりました。

表彰終了後には記念コンサートが行われました。その直前には、サプライズとしてトナカイに押されたサントクロースが突然に登場し、各受賞者にクリスマスプレゼントが手渡され、戸惑いながらも楽しそうに喜んで皆さんが受け取っていました。

記念コンサートは、シンガーソングライター比留間光悦氏による、受賞作品をモチーフとしたコンサートが行われました。命の大切さなど想いが込められた歌やメッセージが贈られ、心から会場の皆さんが聴き入り、共に合唱して、心地よい盛り上がりを感じました。



厚生労働大臣賞



日本PTA全国協議会会長賞



シンガーソングライター 比留間光悦氏



「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞



文部科学大臣賞

# 国内研修事業 in 渡嘉敷村

## 開催日程

平成31年3月27日～平成31年3月31日  
国立沖縄青少年交流の家(3泊)、沖縄県立系満青少年交流の家(1泊)

## 事業の目的・趣旨

次世代を担う子どもたちが集団行動を通して、コミュニケーション能力や他者への理解を高めるとともに、体験活動を通じて社会環境や自然環境への視野を広め、全国や地域で活躍できる人材の育成

## 研修内容

平和学習、海洋研修、伝統文化の体験、野外炊事グループ活動など

## 参加者

全国64協議会より中学生男女115名、各班リーダーとして沖縄大学学生13名、看護



海洋研修



ワークショップ(29年度)

師2名、日本PTA引率9名、国立青少年振興機構より指導員2名、カメラマン2名、旅行社1名参加者が決定いたしました。

国内研修事業開催に際し平成30年11月25日～平成30年11月27日にて、現地調査および表敬訪問いたしました。

(1) 沖縄県教育委員会教育長に表敬訪問、趣旨説明、今年度の開催協力依頼

(2) 沖縄大学に表敬訪問、今年度の協力依頼、各班リーダーの養成(13名)

(3) 国立沖縄青少年交流の家、今年度の開催日程、行程説明、協力依頼、海洋研修、野外炊事、テントなど施設確認、備品確認

(4) 渡嘉敷村役場、表敬訪問

問、趣旨説明、今年度開催協力依頼、行程説明

(5) 渡嘉敷実行委員会との打合せ、講師依頼

(6) 沖縄県立系満青少年交流の家、今年度の開催日程の説明、協力依頼

今年度で5年目となる沖縄県渡嘉敷村での開催。事業の安全と地域・行政との事前準備と打合せを行いました。参加する生徒にとっ

ては、はじめて出会う仲間と過ごす4泊5日の研修は、不安なこともあるかと思いますが、渡嘉敷村の素晴らしい景色、島人をはじめ素晴らしい出会いを楽しみにしてください。歴史を振り返り今の自分と向き合うことで多くの学びを得て、研修で共に汗をかき、新たな友情を築き、これからの生活の一助となるよう実行委員会一同、邁進していきます



渡嘉敷村長 座間味氏と



沖縄県教育長表敬訪問

す。きずなを育む準備をしながら、参加者の皆さんとの出会いを楽しみに準備を進めています。開催まで、あと2カ月余りとなりましたが、事業開催までの体調管理、準備を万全にし、楽しい時間となるよう祈念いたします。

また、本事業は来年度の開催も計画しており、協議会にもより募集予定しています。64協議会を通じ、全国からの参加をお待ちしております。

# 2019年度 初等中等教育予算説明について

平成31年1月15日、全日本中学校長会館において、2019年度予算案に係る説明会が行われた。新学習指導要領の円滑な実施と学校における働き方改革のための指導・運営体制の構築（チームとしての学校運営体制の推進）のための予算は1,533,605百万円となっている。これは、新学習指導要領の円滑な実施と、学校における働き方改革を目指し、学校における指導・運営大の効果的な強化・充実を図り、「チーム学校」を実現するため、教職員定数の改善、専門スタッフや外部人材の配置拡充、業務の適正化などを一体的に推進する。

## 《教職員定数の改善》

1、学校における働き方改革

○教育の持ちこみ数軽減による教育の質の向上

①小学校専科指導の充実：一定の英語力を有志、質の高い英語教育を行う専門指導員の充実

②中学校生徒指導体制の強化

○学校運営体制の強化

①学校総務・財務業務軽減のための共同学校事務体制強化

②主幹教諭配置充実による学校マネジメント機能強化

2、複雑化、困難化する教育課題への対応

・教育課題への対応のため、基礎定数化関連、いじめ、不登校の未然防止、早期対応の強化、貧困に起因する学力課題の解消、

「チーム学校」実現に向けた学校の指導体制の基盤整備、統合校・小規模校への支援

また、専門スタッフや外部人材の拡充を目指し、スクールカウンセラーの配置拡充を実施。

スクールカウンセラーの全公立小中学校への配置は、267,000校から275,000校となる。

貧困・虐待対策のための重点加配（1,000校→14,000校）や、教育支援センター（適応指導教室）の機能強化等、不登校支援のための配置（250箇所）を目指し、支援が必要な学校に弾力的に派遣できるように、地域の実情に応じ、教育委員会への配置も推進する。

○中学校における部活指導員の配置

適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を進めている教育委員会を対象に、部活動指導員の配置を支援（15,000校→30,000校）

《2019年度予算からPTAができること、考えること》

「2019年度予算からPTAができること、考えること」

昨今、喫緊の課題として強く叫ばれている「教職員の働き方改革」ですが、PTAの皆さんで話合われたことはありますか？

成人教育・大人の学びの場として、子どもたちの教育環境をより良くし、健全な育成のため保護者と教職員が協働するのがPTAです。

「チームとしての学校」とは、「教育課程の改善等を実現し、複雑化・多様化した課題を解決していくためには、学校の組織としての在り方や、学校の組織文化に基づく業務の在り方などを見直し、「チームとしての学校」を作り上げていくことが大切」とされています。

「チームとしての学校」像とは、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校です。

その中で、「チームとしての学校」を実現するためには、学校と家庭、地域社会との関係を整理し、学校

**2019年度も実施決定!!**  
**第41回広報紙コンクール**  
**楽しい子育て全国キャンペーン三行詩**

2019年度も皆様からの募集をお待ちしています！  
募集時期は所属協議会のご案内、または日本PTAのホームページからご確認ください。



が何をどこまで担うのか、整理することが必要であるとされ、

「保護者が家庭で子どもに對して行う家庭教育は、教育の出発点であり、子どもの成長を支える学校や家庭、地域との連携・協働による教育活動を充実していくことが重要である。」

また、学校が家庭や地域との連携・協働を進めるに当たっては、PTAの活動が重要である。PTAは、子どもたちの健全育成を目的に、保護者と学校の協力により、学校及び家庭における教育に関し理解を深める様々な活動を行っており、学校の身近な応援団として期待されている。

特に、全国的な傾向によれば、多くの地域で若手の教職員が増加していることもあり、PTA活動を通じて保護者の経験を活かした様々な協力を得ながら、学校、家庭、地域の連携・協働により子どもたちの生きる力を育む必要がある」と中教審の答申で出されています。

つまり、PTAに期待されていることは保護者のみならず地域社会と学校の架け橋であり、且つ、保護者の経験を活かし、子どもたちが生きる力を育むための連携・協働となります。

日々、家庭・子育て・仕事と忙しい日々を送り、時間をやりくりしながらPTA活動をされている皆さんには、「さらに何をすればいいの?」と思われるかもしれませんが、まずは「先生方が子どもたちの指導により時間をかけることができるよう」何ができるか考えてみませんか？

例えば、PTA行事や地域のお祭りの参加者の集計、祝祭日に行われる行事への過度な負担、をお願いしていないか、一度考えてみませんか？

本来先生方の業務ではないはずの業務や、部活動への過度な期待など、いかがでしょうか。先生方がしっかり児童・生徒へ向き合い、指導するための時間を取るために、私たちが協力できることを考えてみましょう。

**「改訂版 今すぐ! 家庭でできる いじめ対策ハンドブック」が発売されました!**



平成27・29年に発行し、全国のPTAの研修会や、教育委員会をはじめ大変多くの方にご支持頂きました「いじめ対策に関する」

画家 青沼貴子さんのイラストを入れ、また、専門教育大学 阿形恒秀先生に最新のいじめ研究について新たに寄稿頂くことになりました。

前作同様、すぐに家庭で実践できることを念頭に、漫画家 青沼貴子さんのイラストを入れ、また、専門教育大学 阿形恒秀先生に最新のいじめ研究について新たに寄稿頂くことになりました。

平成31年1月27日発行  
PTA会員価格100円 + 税  
※別途発送手数料がかかります

**「すべてに感謝! やってよかった PTA」が発売されました!**

社会状況が変化し、保護者の就業環境が様々な中、旧来のPTA活動のままでは立ちいかななくなってきた現在、実際にPTAに携わった全国の先輩たちの「本音」を集めた体験談が発売されました。

「PTAが楽しい」なんて、そんなの都市伝説!と思っているそのあなた。春からいよいよPTAなるものに関わるのかしら...「PTA?なにそれ美味しいの?」と全く興味の無い

そのあなたも! 同じように子育てしながら、同じように家庭と仕事を両立している全国の仲間を体験談から、本当のPTAの姿を見てみてはいかがですか?事例集ではない、PTAの「立場」を超えた「本音」が、聞こえてきます。これを読むと、「PTAの本質」に出会うことができそうですよ!

平成31年1月27日発行  
著作：(公社) 日本PTA全国協議会  
発行：株式会社ジース教育新社  
PTA会員価格700円 (税込)

**すべてに感謝!**  
**やってよかった**  
**PTA**  
著者：公益社団法人 日本PTA全国協議会

●自分が変われば周りも変わる  
●一歩踏み出してみると、景色が変わっていた

公益社団法人日本PTA全国協議会創立70周年記念出版  
ジース教育新社